

もの言う牧師のエッセー… 第19話

③「ヤクザの災害支援」

震災1周年

政府の無策や東電の隠蔽体質に加え、最近の瓦礫を巡る国民の冷淡さをよそに、震災発生と同時にヤクザたちが見せた行動力は、その規模・内容・スピード等、どれをとっても特筆に価する。

指定暴力団“大手3団体”である山口組、住吉会、稲川会は地震直後から行動を起こし、中でも福島にルーツを持つ稲川会は13日朝までにトラック25台で50トンもの支援物資をひたちなか市役所に送り込んだ。食料、水、毛布、懐中電灯、さらに生理用品まで用意するという決め細やかさに加え、受け渡しの際には身分も明かさず立ち去ったという。さらに東京では街に溢れる帰宅難民に事務所を開放、住吉会に至っては外国人コミュニティにさえ避難所を提供したのだった。

“街のダニ”とか“人間のクズ”などと嫌われるヤクザの今回の支援活動を見て、イエスが話した有名な「親切なサマリヤ人」“Good Samaritan” の話を思い出した。

あるユダヤ人が強盗に襲われ半殺しにされて道に捨てられた。そこへ町の有力者や敬虔な紳士が通りかかったが知らん顔して通り過ぎた。最後にユダヤ人から忌み嫌われているサマリヤ人が立ち止まり、そのユダヤ人を抱き起こして介抱し、さらには宿屋に連れて行き治療代まで出してやって立ち去った。』である。そこでイエスは言う。

「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ！」ルカの福音書 10 章 27 節

と。言うだけならたやすい。屁理屈や感情論ではなく実践することの大切さを“嫌われ者”のヤクザたちは示したが、キリストは神でありながら自ら命を賭けて十字架にかかり、罪に沈みやがて滅ぶ我々人類の身代わりとなってまで「隣人を愛する」ことを見事に“実践”し、我々を救って下さった。こんなスゴイ神様を信じれば日本の復興は間違いない。

2012-3-27

